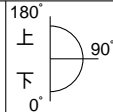
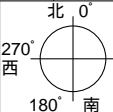



ボーリング柱状図




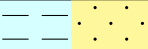


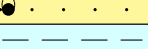
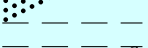
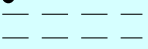



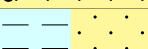
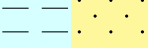
調 査 名 田辺晋ほか (2006)地調研報 , vol.57 , no.9/10 , p289-307.






























事業・工事名 産総研 都市地質プロジェクトの層序ボーリング調査

ボーリングNO.									
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業 工事名															産総研 都市地質プロジェクトの層序解明調査															シートNO.									
ボーリング名		GS-AMG-1 (本木)					調査位置		東京都足立区本木1-14 足立区立本木東小学校															北 緯		35 ° 45 ' 43.15 ”													
発 注 機 関		(独) 産業技術総合研究所										調査期間		2005_01_05 ~ 2005_02_28										東 経		139 ° 47 ' 11.01 ”													
調 査 業 者 名		出展：(独)産業技術総合研究所RIO-DB「関東平野の地下地質・地盤データベース」					主任技師				現 場 代 理 人				コ ア 鑑 定 者				ボーリン グ責任者																				
孔 口 標 高		1.67 m		角 度		方 向		地 盤 勾 配		使用 機種	試 錐 機		文献・出典の詳細はXMLファイルのフリー情報欄を参照．					ハンマー 落下用具																					
総 掘 進 長		58 m									エ ン ジ ン							ポ ン プ																					

シートNO.

標 尺 (m)	標 高 (m)	層 厚 (m)	深 度 (m)	柱 状 図	土 質 区 分	色 調	記 事	地 層 岩 体 区 分	孔 内 水 位 (m) / 測 定 月 日	試料採取			室 内 試 験
										深 度 (m)	試 料 番 号	採 取 方 法	
1					埋土 (FI)		表土。人工物混在。	盛 土	01/12 1.10				
2	-0.13	1.80	1.80		有機質粘土 (CHO)	黒	泥炭質なシルト層。	沖積層（デルタシステム/氾濫原堆積物） 沖積層（デルタシステム/干潟堆積物）	01/17 3.75	2.15 2.38 2.42 2.46 2.98 2.98 2.98	b081205a03 b 081205a04 b 081205a05 b 081205a06		C14年代 (2350 ± 50 y r BP) C14年代 (4830 ± 60 y r BP)
3	-0.63	0.50	2.30		細砂・有機質シルト互層 (FS/MO)		層厚50-60cmの極細粒～細粒砂層と層厚20cmの泥炭質なシルト層の互層。 全体に生痕化石を含む。 砂層中には低角の斜交層理が認められる。 泥炭質なシルト層には、多くの植物片と細粒砂で充填された楕円形の生痕化石がみられる。			2.98 2.98 3.50	b 081205a08 b 081205a09		C14年代 (4120 ± 50 y r BP) C14年代 (2670 ± 50 y r BP)
4	-1.93	1.30	3.60		貝殻混りシルト・細砂互層 (M-Sh/FS)		塊状シルト層～砂泥細互層。 上部ほどシルト層に挟在する極細粒砂層理と葉理の頻度および植物片の含有量が増加する。 Psilonichnus isp.などによる生物攪乱を受けている。 9.1m以深からはウラカガミなどの貝化石が産出する。			3.60 3.83			C14年代 (2040 ± 50 y r BP) C14年代 (4750 ± 50 y r BP)
5										4.90 4.90	b081205a10		C14年代 (4780 ± 50 y r BP)
6													
7									01/24 7.60	7.83 7.88	b 081205a11		C14年代 (4790 ± 60 y r BP)
8								沖積層（プロデルタ～デルタフロント）					
9										9.31 9.35	b 080505a03		C14年代 (5430 ± 80 y r BP)
10	-8.33	6.40	10.00		貝殻混りシルト質細砂 (FSM-Sh)		下位のシルトからの上方粗粒化を示す。 Psilonichnus isp.などによる生物攪乱を強く受けている。 ウラカガミが多産する。			10.57 10.63	b 080505a04		C14年代 (5640 ± 50 y r BP)
11													
12	-10.33	2.00	12.00		貝殻混り砂質シルト (MS-Sh)		上位の極細砂へ上方粗粒化を示す。 極細砂の薄層を挟むシルト～砂質シルト層。 Psilonichnus isp.などによる生物攪乱を強く受けている。 ウラカガミが多産する。			11.95 11.97	b 080505a05		C14年代 (6260 ± 50 y r BP)
13													
14										14.25 14.30	b 080505a06		C14年代 (6410 ± 70 y r BP)
15										15.42 15.46	b 080505a08		C14年代 (5810 ± 80 y r BP)
16	-14.83	4.50	16.50										
17					貝殻混りシルト質細砂 (FSM-Sh)		堆積相AMG5(16.5-26.8m)：植物片の含有量が上部に向かって減少。 極細～細砂からなる。 生物攪乱を強く受けている。 アナジャコ類などによって形成されたと考えられる生痕化石 (Psilonichnus isp.)がみられる。 ヌマコダキガイ類、ウラカガミ、イトカケ類を産出。	沖積層（エスチュアリーシステム）		16.75 16.75	b 080505a09		C14年代 (7130 ± 60 y r BP)
18										17.50 17.50	b 080505a10		C14年代 (7370 ± 50 y r BP)
19	-17.33	2.50	19.00		貝殻混り細砂 (FS-Sh)		生物攪乱を強く受けている。 アナジャコ類などによって形成されたと考えられる生痕化石 (Psilonichnus isp.)がみられる。 ヌマコダキガイ類を産出。			19.20 19.25	b 080505a11		C14年代 (8060 ± 60 y r BP)
20	-18.63	1.30	20.30				19.8m以浅からウラカガミとイトカケ類を産出。			20.17 20.17	b 080505a13		C14年代 (7840 ± 50 y r BP)
21					シルト・細砂互層 (M/FS)		層厚2cm以下の細粒砂とシルトの平行葉理・層理の互層。 カレント・リップル層理とダブルマッドドレイプ、楕円形の生痕化石がみられる。 22.0-22.5m上方粗粒化を示す。						

22	-20.73	2.10	22.40		シルト・細砂互層 (M/FS)		層厚2cm以下の細粒砂とシルトの平行葉理・層理の互層。カレント・リップル層理とダブルマッドドレイプ、楕円形の生痕化石がみられる。22.0-22.5m上方粗粒化を示す。	沖積層（エスチュアリーシステム）	21.90	b 082205a29	C14年代（7880 ± 50 y r BP）
23	-21.63	0.90	23.30		貝殻混り砂質シルト (MS-Sh)		シルト～極細砂。23.0m以浅にはアナジャコ類などによって形成されたと考えられる生痕化石（Psilonichnus isp.）がみられる。23.2m以浅からヌマコダキガイ類を産出。		22.90	b 080505a14	C14年代（8210 ± 130 y r BP）
24					シルト・細砂互層 (M/FS)		層厚2cm以下の細粒砂とシルトの平行葉理・層理の互層。カレント・リップル層理とダブルマッドドレイプ、楕円形の生痕化石がみられる。23.4-25.0m上方粗粒化を示す。		23.04	b 080505a15	C14年代（8330 ± 60 y r BP）
25	-23.83	2.20	25.50						23.24		
26					細砂 (FS)		極細砂。		24.08	b 081205a18	C14年代（7980 ± 60 y r BP）
27	-25.13	1.30	26.80		細砂 (FS)		26.9-27.8m セット高が10-20cmのトラフ型斜交層理がみられる。	沖積層（エスチュアリーシステム）	24.11		
28					細砂 (FS)				24.17		
29	-27.23	2.10	28.90		砂 (S)		極細～中砂。中砂から極細砂へ上方細粒化を示す。極細砂はヘリンボーン構造を示す。		25.28	Beta208335	C14年代（8240 ± 60 y r BP）
30	-28.83	1.60	30.50		砂 (S)		細～粗砂。粗砂から細砂へ上方細粒化を示す。粗砂はセット高が20cm以上の低角の平板型斜交層理を示す。		25.62	b 081205a16	C14年代（7570 ± 650 y r BP）
31	-29.33	0.50	31.00		細砂 (FS)				25.93	b 081205a18	C14年代（8350 ± 60 y r BP）
32	-30.33	1.00	32.00				コア試料欠如。		26.90	b 081205a16	C14年代（7750 ± 60 y r BP）
33	-31.33	1.00	33.00		細砂 (FS)		カレント・リップル層理の発達した細砂。下位の中砂から上方細粒化。ヘリンボーン構造を示す。		26.92		
34					細砂 (FS)				27.94	b 081205a19	C14年代（8570 ± 60 y r BP）
35	-33.93	2.60	35.60		中砂 (MS)		セット高が10-20cmのトラフ型-平板型斜交層理を示す中砂。上位の細砂へ上方細粒化。基底には長径8cm以下のマッドクラストが濃集する。		27.94		
36	-35.23	1.30	36.90		砂 (S)		中～細砂。上方細粒化を示す。低角（約5°以下）の平板型斜交層理がみられる。		29.75	b 082205a30	C14年代（8570 ± 60 y r BP）
37					粗砂 (CS)		シルト～砂礫。砂礫からシルトへと上方細粒化する。セット高が40cm以下のトラフ型斜交層理を示す。39.2-39.5m シルト。40.45m付近 細～中礫を含む。		29.75		
38					有機質シルト (MO)		泥炭質なシルト層。極細砂の薄層を挟む。炭化した植物片や植物根を多く含む。藍鉄鉱が晶出する。		34.75	b 081205a20	C14年代（8730 ± 60 y r BP）
39	-37.53	2.30	39.20		有機質シルト・細砂互層 (MO/FS)		シルト層と極細～細砂層の互層。植物片を多く含む。砂層中にはカレント・リップル層理がみられ、シルト層から逆級化することが多い。		34.75		
40	-38.83	1.30	40.50		砂 (S)		細～中砂。セット高が30cm以上で、20-30°に傾斜する、コンケーブ状のフォアセット構造がみられ、トラフ型斜交層理の一部であると考えられる。50.2-50.5、50.5-52.1m間 それぞれ上方細粒化を示す。		36.78	b 081205a21	C14年代（8780 ± 60 y r BP）
41	-39.33	0.50	41.00		粗砂 (CS)		平行葉理がみられ、細礫が点在する。最上部に中礫を含む。		36.79	b 081205a22	
42					砂礫 (GS)		礫の最大(長軸)径は4-7cmで、粒径の垂直方向の変化は認められない。		36.97		
43					中砂 (MS)		平行葉理がみられ、細礫が点在する。		39.32	b 081205a24	C14年代（9290 ± 70 y r BP）
44	-46.63	7.30	48.30		有機質シルト (MO)		泥炭質なシルト層。極細砂の薄層を挟む。炭化した植物片や植物根を多く含む。藍鉄鉱が晶出する。	沖積層（蛇行河川システム）	39.32		
45					有機質シルト・細砂互層 (MO/FS)		シルト層と極細～細砂層の互層。植物片を多く含む。砂層中にはカレント・リップル層理がみられ、シルト層から逆級化することが多い。		41.15	b 081205a25	C14年代（9140 ± 70 y r BP）
46					砂 (S)		細～中砂。セット高が30cm以上で、20-30°に傾斜する、コンケーブ状のフォアセット構造がみられ、トラフ型斜交層理の一部であると考えられる。50.2-50.5、50.5-52.1m間 それぞれ上方細粒化を示す。		41.15		
47	-50.43	1.90	52.10		粗砂 (CS)		平行葉理がみられ、細礫が点在する。最上部に中礫を含む。		43.32	b 081205a26	C14年代（9340 ± 60 y r BP）
48	-51.23	0.80	52.90		砂礫 (GS)		礫の最大(長軸)径は4-7cmで、粒径の垂直方向の変化は認められない。		43.38		
49					中砂 (MS)		平行葉理がみられ、細礫が点在する。		45.40	b 081205a27	C14年代（9920 ± 60 y r BP）
50	-53.13	1.90	54.80		砂礫 (GS)		礫の最大(長軸)径は4-7cmで、粒径の垂直方向の変化は認められない。		45.40		
51	-53.63	0.50	55.30		中砂 (MS)		平行葉理がみられ、細礫が点在する。		47.45	b 081205a29	C14年代（9480 ± 60 y r BP）
52									47.45		
53									49.67	b 081205a30	C14年代（11020 ± 60 y r BP）
54									49.71	b 081205a31	C14年代（10710 ± 80 y r BP）
55									50.03		
									50.07		

[illegible]